

2012  
2月号

念仏のこころに生きる生活を

高岡教区

# 教区報

公益法人制度改革にもなう「財団法人  
浄土真宗本願寺派高岡教区教学財団」  
の対応について

「教学財団理事会のご報告」

去る一月十二日（木）西本願寺高岡会館において、  
教学財団理事会及び第一回社会福祉法人設立準備会  
が開催されました。この会合は公益法人制度改革にと  
もなう、さくら保育園社会福祉法人設立のために必要  
となる正規の社会福祉法人設立準備会員について教  
学財団理事長が選任し理事会の承認を求めめるために  
合同で開催されたものです。承認された社会福祉法人  
設立準備会員は 安藤峯代（施設長） 岩田三紀子（地  
域の社会福祉事業関係者） 小嶋忠（地域の自治会代  
表者） 鷹屋文祐 桃井千秋 元井貫 清水朗（以上  
四名は学識経験者） 麻生修善（過去に社会福祉関係  
に従事した経験を持つ者） 藤井玲子（税理士）の九  
名です。この設立準備会員が設立当初の理事・監事と  
なるべく富山県に申請をいたしております。

また、申請業務を委託している「清水経営管理事務  
所」（高岡市江尻）の鎌倉所長より、定款案を含めた  
申請内容について富山県とのヒアリング状況につい  
て報告がありました。報告によると、本年二月に富山  
県の審査が終了し、二〇一二年四月一日付で正式に認  
可されるであろうとのことでした。

## 教区仏教婦人会が新年会

教区仏教婦人会連盟の新春を迎え  
ての新年会が一月二十七日（金）、高  
岡ニューオータニホテルを会場にし  
て催され、来賓の教区役職者・歴代  
仏教委員長の方々はじめ、各单位仏  
教婦人会から会員九十七名が参加し  
て親睦を深めた。

新年会の宴会に先立って廣岡隆圓  
教務所長から新春の法話があり、「新  
年を迎えてただおめでたいと喜ぶの  
ではなく、諸行無常の理を改めて受  
けとめ、その無常の世で唯一たよる  
べきはお念仏であり、お念仏をいた



だく人生を歩んでいただきたい。  
そしてお念仏を身をもって家庭で  
子や孫に伝えていただきたい。」と  
新春を迎える心構えについて話さ  
れた。

新年会では、最初に石野順子仏  
教婦人会連盟委員長が挨拶（写  
真）。続いて養藤了文宗会議員が来  
賓を代表して挨拶され、桃井千秋  
教区会議長の乾杯の発声で宴会へ  
と移った。宴会では、射水組と氷  
見西組仏教婦人会の会員による華  
やかな新舞踊やユーモア溢れる踊  
りが披露されるなど、楽しいひと  
時となった。余興ではビンゴゲー  
ムが行われ、ビンゴになった人か  
ら順に会場の前に並べられた数種  
類の品物の中から一つをお土産に  
選んでもらったが、席に戻って早  
速中身を確かめる人も・・・。

最後に鷹屋文祐組長会長から仏  
教婦人会連盟への激励の言葉をい  
ただき、中締めとなった。



## 連研のための研究会が開催

一月二十四日西本願寺高岡会館において、各組連研スタッフを対象に「連研のための研究会」が開催され、総勢六十一名の連研スタッフが参加した。

今回は、「今後の連研のあり方を考える」をテーマに、今まで仏事や寺院とほとんど関わりがなかった方が連研の受講者のほとんどを占めるようになった中で、今後はどうのような形で連研を進めていくかということについて話し合った。

山名一徳氏（伏木組相談員）・池内瑞雄氏（新湊組相談員）による問題提起では、「開催者として『念仏者として社会の諸問題を自らの課題として欲しい』という思いがある一方で、『何もわかんないので、まずお経や作法など基本から学びたい』というのが受講者の要望。『念仏者・教えとは？』ということが何もわからない中で、初めて聞く話を、いきなり十五分の問題提起で与えられた情報をもとに話し合いをしろと言われても、戸惑うばかりであろうかと思う。その受講者の思いを今までは余りにも一方的に切り捨ててきたのでは……。」「もはや門徒推進員の養成という以前に、まず門徒である、念仏者であるという意識を高めていく所から始めなければならぬ時期にきていると感じる。ただ、その中で、一番のポイ

ントとなるのは『教えと社会の問題は別ではない』ということを決して外さない上で、いかに要望に添えていくか、ということだと思ふ。」「（山名氏）と、原則は守りつつも知識習得を求める受講者の要望に耳を傾けていく必要性を挙げられた。

また、「かつて連研修了者にアンケートを取りましたが、『参加して良かった』という意見がある一方、『勉強してみませんかと誘われ参加したら、知りもしない数々の問題について逆に質問され戸惑った』、『真宗のことを何も知らない私には難しくて、自分の意見を言うことなどできなかった』といった意見があった。その時はそれらの意見をあまり気にしませんでした。前回の組連研は最初から最後まで話がかみ合わなかった印象があり、実際に中央教修に行った人もわずか。今のやり方のままで、実はほとんど何も伝えられていないのではないかと、そんな風に思う。入門講座的なものは連研とは別に用意し、その修了者を連研に誘うという、二段構えでやるのが良いと思ふ。」「（池内氏）と問題提起された。

話し合い法座の後の全体協議会では、「やはり連研の場だけで全てをやるうというは無理がある。基礎的な知識を学びたいという要望などは僧侶が日常の法務で引き受けると同時に、教化団体などで入門講座をやるなど、連研だけで考えるのではなく、そういったフォローをしていくことが必要ではな

いか。」「といった指摘や、「『一時的な慰めではなく真の人間性を回復する道を見出す』、連研をやっていく上でヤスクニも差別問題もどうやってそこへ持っていかか悩み。何らかの手引きのようなものがあればと思ふ。」「必ずしも今までのやり方にこだわる必要はないが、連研とは知識習得ではなく、僧侶も門徒も共に、人としての生き方が問われる場。それに適っているかどうか。」「などの意見が出された。

## 真宗大谷派高岡教区(東本願寺) 公開講座

家族で語り合おう「いのちの絆」

- 東日本大震災を心に刻む -

同封のチラシありますように、3月2日(金)午後6時50分より、養老孟司氏の講演会が高岡市民会館で開催されます。(入場料は千円)

詳細につきましては真宗大谷派高岡教務所(0766-22-0464)にお問い合わせください。また、チケットは高岡市民会館でも販売しております。

## 基幹運動の「T」ナー

本当の「新たな始まり」

### 私たちの運動の方向性を考える

年が明けて、早くも一ヶ月が過ぎ去り、所謂「年度末」に入ってきました。教務所の方でも、毎日、何らかの研修や会議が催されています。また、各組の事業に関してのご連絡や依頼も数多く入ってきました。既に、教務所のホワイトボードは真っ黒になっています。

しかし、私のまわりには、若干、例年とは違う雰囲気漂っています。

今回は教区報の貴重なページをお借りしながら、この時点での私自身の心の整理と、新たな運動の方向を考えることといたしました。

例年とは違う何か…。

一つには、東日本大震災があると思います。同封のチラシにもある様に、来月で丸一年となる被害に対して、教区では当初の義援金や物資の送付などとは違う、「つながり」を念頭に置いた新たな支援活動が企画されてきました。「震災以降」の新しい年にある意味で、高岡教区の主体性と方向性が定まりつつあると思われませんが、「息の長い支援」への覚悟を持たねばならないと思います。

二つ目には、まもなく役職者の任期満了を迎える、ということが挙げられます。五年間の点検・集約は、教区も組でも重要です。残り一月半…。御遠忌の団体参拝は終わりましたが、運動は続きます。新たな態勢で何を引き継いでいくのか、の総括が重要です。三つ目には、様々な形でこれまでの取り組み（研修）の成果が

伺えていることが挙げられます。高岡教区の研修活動は「話し合い法座」を中心に進めてきましたが、教化団体や組での研修でも、意識の深まりが感じられます。「話し合い法座」のなかで、「真宗の本来化」が進んでいることを実感します。

四つ目には、新たな宗法と宗則の制定があります。三十余年続けられた「基幹運動」は「御同朋の社会をめざす運動」となり、内容も大きく変わるようです。その意義や目的は未だ明らかではありませんが、高岡教区においてはこれまでの運動の成果と課題を踏まえ、これまで以上に主体的に取り組みを進めたいと考えます。

以上、大雑把なところで、最近、感じられる「変化」をまとめてみました。皆さんのなかでも、これ以外に、社会の変化、教団内外の変化を様々な感じられていることも多いと思われれます。その「変化」はどちらかといえば、予見不能で将来への影響が避けられないことも多く、好ましくないと思ったり不安を抱いておられたりしているのではないのでしょうか。しかし、であるからこそ「真宗のみ教え」「念仏」であるはずです。

先の御満座法要の御消息では、この度の法要が「新たな始まり」の機縁となるよう表されています。実際にそうなるのか、或いは、御遠忌法要が私たちにどの様な意味をもたらしたのかは、それぞれの受け留めによるものと思います。むしろ、時代や社会、教団が変わっても、私たちが何を本当に「始める」べきなのか、今こそ「本願念仏」から問われているように思います。さまざま変化の只中であってこそ、私の信心が問われ、さらには、「念仏の真実」が明らかになるものと思うのです。

これからの日程 ( 2 / 2 0 ~ 3 / 2 0 )

2月		
20	仏婦大会組担当者会	
21	糸岡組基幹運動研修会	連区相談員・専従員
	サンセリテレビハーラ活動	研修会 ( ~ 2 2 ・ 石川 )
22	長寿苑ビハーラ活動	
24	新湊組基幹運動研修会	
	ビハーラ研修会	
25	門徒推進員研修協議会	
	若神組基幹運動研修会	
	さくら作品展	
27	組長会慰労会	
29	コーラス練習日	定期宗会
3月		
2	布教団連合総会	
3	若女性部会研修会	
5	仏壮理事会	
	布教団役員会・研修会	
	第4 B 総代研修会	
6	第1 B 総代研修会	
7	雨晴苑ビハーラ活動	
	寺青役員会	
10	第3 B 総代研修会	
	中仏生のつどい	
12	同朋の会	
13	教区コーラス練習日	
	講社連盟役員会	
15	仏婦常任委・単位会長会議	
16	聖典セミナー ( 1 0 回目 )	
19		
20		



ラジオ放送 ~ 西本願寺の時間 ~

『みほとけとともに』

北日本放送 ( K N B ) ・ 7 3 8 k H z .

毎週土曜日 ( 本 山 制 作 ) 午前 6:15 ~ 6:25

第 2 ・ 4 日曜日 ( 富山 ・ 高岡制作 ) 午前 6:00 ~ 6:10

2 / 11 ( 土 ) : 檜崎 正道氏 ( 広島県 ・ 順覚寺 )

「世のなか安穏なれ - 阿弥陀さまの願いに生きる - 」

2 / 12 ( 日 ) : 安達 秀憲 氏 ( 高岡教区 ・ 空泉寺 )

2 / 18 ( 土 ) : 檜崎 正道氏 ( 広島県 ・ 順覚寺 )

「世のなか安穏なれ - 親鸞聖人の歩まれた道 - 」

2 / 25 ( 土 ) : 大竹 輝道 氏 ( 三重県 ・ 聞光寺 )

「如来の大悲を頂いて」

2 / 26 ( 日 ) : 山名 一徳氏 ( 高岡教区 ・ 龍善寺 )

3 / 3 ( 土 ) : 大竹 輝道 氏 ( 三重県 ・ 聞光寺 )

「いのちの行く」

3 / 10 ( 土 ) : 藤井 邦麿 氏 ( 大分県 ・ 正善寺 )

「ご縁のままに」

3 / 11 ( 日 ) : 未 定 ( 富山教区 )

3 / 17 ( 土 ) : 藤井 邦麿 氏 ( 大分県 ・ 正善寺 )

「凡夫の眼 仏の眼」

3 / 24 ( 土 ) : 藤井 邦麿 氏 ( 大分県 ・ 正善寺 )

「お彼岸を迎えて」

お知らせ

『法輪せんべい』販売について

お茶菓子やご法事・ご法座の折のお扱いにいかがでしょうか。お申し込み先は下記のとおり。

FAX. でのお申し込みも承ります。どうぞご利用下さい。

一袋二枚入りで価格は次の通り

一袋二枚入りで価格は次の通り

・特大箱 ( 1 7 5 袋 ) 7 , 0 0 0 円

・大 箱 ( 4 5 袋 ) 2 , 0 0 0 円

・小 箱 ( 1 6 袋 ) 9 0 0 円

お申込み先は・・・〒933 - 0003 高岡市能町 1 2 9 8

耳浦 康真 ( 本誓寺 ) Tel. & Fax. ( 0766 ) 23 - 9822

編集後記

内閣府が掲げた自殺対策強化月間の標語「あなたも G K B 4 7 ( ゲートキーパーシク 4 7 ) 宣言!」の表現が、不適切だとされ変更になりました。

標語の賛否はもちろんありますが、そんなことより自ら命を絶つ人が、十四年連続で三万人を超えている・・・この現状を打開できないものでしょうか。

ある僧侶の方が「安心して死ねる社会の実現」ということを言われたことがあります。一見不謹慎に聞こえるかもしれませんが、今まさに考えていかなければならないことなのではないと思います。